

慣用句をうまく使おう

年 組 名前

☆ 慣用句をうまく使おうと、短い言葉ではっきりとイメージを伝えることができます。表現も生き生きとして豊かになります。文章の中で、たくさん慣用句が使えるように練習してみましょう。

1、Aは慣用句を使った文で、Bは使っていない文です。□の中にはどんな言葉が入るでしょうか。後から選んで、記号を書き入れましょう。

A 今日先生がいなくて、みんな□をのばしています。
B 今日は先生がいなくて、みんなのびのびと自由にしています。

A あの人は、□を割ったような人がらで、みんなから好かれている。
B あの人は、真つ正直でさっぱりした人がらで、みんなから好かれている。

A ぼくと兄は、みんなに□二つだといわれています。
B ぼくと兄は、みんなに顔や姿がとてもよく似ているといわれています。

A お母さんは、今朝から□の居所が悪いようだ。
B お母さんは、今朝からきげんが悪くておこりっぽくなっているようだ。

A わたしは、小説家になろうと決心して、夏目先生の□をたたいた。
B わたしは、小説家になろうと決心して、夏目先生の家を訪ねて弟子にしてほしいとたのんだ。

A □から□が出るほど、ほしかったテレビゲームをやつと買うことができた。
B ほしくてほしくてたまらないぐらい、ほしかったテレビゲームをやつと買うことができた。

ア うり イ はね ウ のど エ 竹 オ 門 カ 虫 キ 手

2、「耳を疑う」という慣用句を使って、文を作ってみましょう。

慣用句をうまく使おう

年 組 名前

☆ 慣用句をうまく使おうと、短い言葉ではっきりとイメージを伝えることができます。表現も生き生きとして豊かになります。文章の中で、たくさん慣用句が使えるように練習してみましょう。

1、Aは慣用句を使った文で、Bは使っていない文です。□の中にはどんな言葉が入るでしょうか。後から選んで、記号を書き入れましょう。

A 今日先生がいなくて、みんな□をのばしています。
B 今日は先生がいなくて、みんなのびのびと自由にしています。

A あの人は、□を割ったような人がらで、みんなから好かれている。
B あの人は、真つ正直でさっぱりした人がらで、みんなから好かれている。

A ぼくと兄は、みんなに□二つだといわれています。
B ぼくと兄は、みんなに顔や姿がとてもよく似ているといわれています。

A お母さんは、今朝から□の居所が悪いようだ。
B お母さんは、今朝からきげんが悪くておこりっぽくなっているようだ。

A わたしは、小説家になろうと決心して、夏目先生の□をたたいた。
B わたしは、小説家になろうと決心して、夏目先生の家を訪ねて弟子にしてほしいとたのんだ。

A □から□が出るほど、ほしかったテレビゲームをやつと買うことができた。
B ほしくてほしくてたまらないぐらい、ほしかったテレビゲームをやつと買うことができた。

ア うり イ はね ウ のど エ 竹 オ 門 カ 虫 キ 手

2、「耳を疑う」という慣用句を使って、文を作ってみましょう。

〔例〕 この間の国語のテストは、難しくて全然分からなかったので、適当に答えを書いておいた。すると、先生から、「あなたがこのクラスで一番だったよ。」と聞かされ、思わず自分の耳を疑った。